

# 第 3 章

我孫子市における文化財調査の概要と  
保存・活用の課題及び方針

---

## 第3章 我孫子市における文化財調査の概要と 保存・活用の課題及び方針

### 1 市内での既存の文化財調査の概要

我孫子市でこれまで行った文化財調査は以下のとおりである。

#### (1) 埋蔵文化財発掘調査事業

##### ① 『我孫子古墳群』でまとめられた調査

昭和33(1958)年、当時我孫子町内に在住していた東京大学文学部助教授西嶋定生が宅地造成に伴って自宅近くの古墳が破壊されつつあることに気が付き、町の補助を受けて東京大学文学部考古学研究室が緊急で発掘調査を行った(白山1号墳)。これを皮切りに昭和42(1967)年までの9年間、我孫子地区の古墳及び集落遺跡等について、測量調査、発掘調査を実施し、古墳時代を中心とした総合調査を行った。その成果を『我孫子古墳群』(東京大学考古学研究室編 我孫子町教育委員会刊)として昭和44(1969)年に刊行した。発掘調査には考古学を専攻する多くの大学生や地元の中高生が参加し、報告書には遺構、遺物について考古学的手法による考察はもとより科学分析も行われ、学史的にも非常に意義深いものである。



写真60 『我孫子古墳群』

##### ②埋蔵文化財発掘調査

『我孫子古墳群』でまとめられた東京大学文学部考古学研究室による発掘調査以降、大学教授や有識者が中心となって結成された「遺跡調査団」による発掘調査(妻子原遺跡、中峠城跡、柴崎遺跡)を経て、昭和52(1977)年以降は我孫子市教育委員会で文化財専門職員を配置し発掘調査を実施している(ただし、昭和54(1979)年度に実施した布佐余間戸遺跡、昭和56(1981)年の中峠庚申塚の発掘調査は市の調査体制では対応できない状況であったため、民間発掘調査組織を活用した)。



写真61 埋蔵文化財発掘報告書

発掘調査は、保存や学術調査を目的とするもの、開発等(個人専用住宅、民間開発、公共事業等)に伴うものがあるが、我孫子市教育委員会では主に開発等に伴う発掘調査を実施している。遺跡の広がりや本調査範囲確定のための「確認調査」、遺跡を掘り上げて記録保存

するための「本調査」など、短期間で1日程度の確認調査から長期間では数年に及ぶ本調査まで様々であるが、令和2（2020）年7月までに421次に及ぶ発掘調査を実施している。

発掘調査の結果は、出土遺物の整理後に「発掘調査報告書」として刊行するが、基本的には調査地点ごとの報告となり、相馬郡衙周辺の遺跡のように面的に広がる遺跡群（別当地遺跡、野守遺跡、西原遺跡、チアミ遺跡、将門神社遺跡、君作遺跡等）の性格については多数の報告書を読み解く必要がある。一方で平成25（2013）年度から国庫補助及び県費補助を受けて下ヶ戸貝塚の報告書を刊行している（令和元年度までで7冊、全9冊の予定）。この報告書は下ヶ戸貝塚を遺構、遺物、環境などの視点から総合的にとらえる報告書となっている。

## （2）市史編さん事業

昭和48（1973）年、「我孫子市史編さん委員会設置条例」、翌49（1974）年「我孫子市史編さん事業の基本計画」を定め、市民の協力を得ながら専門的な市史研究を深めていくことを基本方針として我孫子市史の編さん事業を開始した。これを受けて『我孫子市史研究』（全16巻）を刊行し市史本編の刊行に向けて準備を進めるとともに、市内の古文書資料の調査を進めて、『我孫子市史資料』（13冊）、『資料目録』（15冊）の刊行を重ねた。

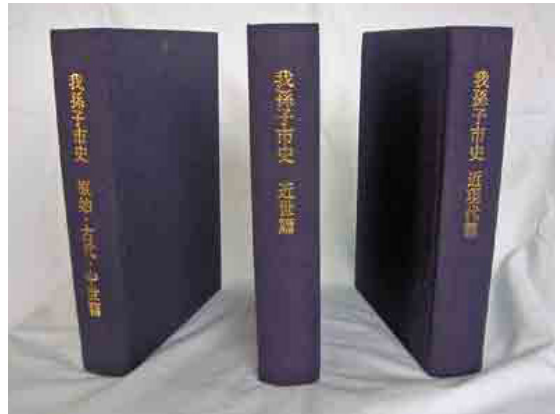


写真62 我孫子市史刊行物

市史本編は『民俗文化財篇』、『原始・古代・中世篇』、『近世篇』、『近現代篇』を刊行し、平成17（2005）年3月に完了した。その後、新たに我孫子市に寄贈・寄託された資料を中心に、『杉村楚人冠関係資料目録』『旧布佐町 井上家資料目録』などを刊行した。また、目録化した資料や古文書資料の調査結果などを“我孫子市文化財報告”としてシリーズ化し、広く一般に紹介するために現在16冊を刊行している。

## （3）千葉県による調査

県による調査では、手賀沼周辺の民俗調査の成果をまとめたものを『印旛沼・手賀沼周辺の民俗』として昭和45（1970）年に刊行している。全県的な調査としては、平成5（1993）年から同7（1995）年に調査が実施された『千葉県文化財実態調査（絵馬等）』に竹内神社や妙蓮寺などの絵馬など計19点、平成8（1996）年から同10（1998）年の『千葉県産業・交通遺跡実態調査』に東我孫子一里塚、湖北一里塚、平成14（2002）年、同15（2003）年の『千葉県近代和風建築総合調査報告書』に旧村川別荘、旧武者小路実篤邸、旧志賀直哉邸書斎など、いずれも我孫子市の情報が掲載されている。

また、市内の日秀西遺跡については、千葉県教育委員会による詳細な調査が行われ、「千

葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」(昭和55〈1980〉年)を刊行し、古墳時代後期の竪穴建物186棟、奈良・平安時代の掘立柱建物48棟、基壇建物6棟他が報告されている。

なお、現在まで実施した我孫子遺産に関わる調査の概要等について記したものが図33である。



類型		実施概要	把握件数	今後の課題	
有形文化財	建造物	寺社建築	・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和49年～平成17年)	62件	時点修正が必要
		古民家などの歴史的建造物	・千葉県教育委員会が千葉県近代建造物実態調査を実施(平成3年～4年) ・千葉県近代和風建築総合調査を実施(平成13年～同14年) ・現地調査のためのデータ整理作業(平成21年)	89件	市としての調査及び、現地調査が必要
	美術工芸品	美術工芸品	・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和49年～平成17年、平成23年～)	877件	時点修正及び、新規調査が必要
		古文書	・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和49年～)	44件	時点修正及び、新規調査が必要
		考古資料	・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和52年～)	26件	随時調査が必要
		石造物	・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和49年～平成17年) ・市民による調査(平成17年)	9,920件	時点修正が必要
無形文化財	演劇・音楽・工芸技術等	・未調査		今後調査が必要	
	保存技術	・未調査		今後調査が必要	
民俗文化	有形	民具	・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和49年～平成17年、平成23年～)	1,552件	時点修正と所蔵する資料の更なる調査が必要、新規調査が必要
	無形	祭り・行事・講・生活・生業	・千葉県教育委員会が調査を実施(昭和45年) ・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和49年～平成17年、平成30年～)	66件	時点修正と所蔵する資料の更なる調査が必要、新規調査が必要
		説話・伝承	・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和49年～平成17年)	30件	更なる調査が必要
記念物	史跡	遺跡	・東京大学文学部考古学研究室が調査を実施(昭和42年～同50年) ・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和52年～)	206件	随時確認調査を実施し、時点修正等が必要
		古道	・千葉県教育委員会が調査を実施(平成8年～同10年)	5件	更なる調査が必要
		旧宅	・我孫子市教育委員会が調査を実施(昭和49年～)	7件	更なる調査が必要
	植物	・我孫子市教育委員会が調査を実施(平成27年～)	3件	更なる調査が必要	
文化的景観		・我孫子市教育委員会が調査を実施(平成20年～)	1件	更なる調査が必要	

図33 我孫子遺産の把握件数と実施概要

## 2 我孫子遺産をめぐる現状と課題

第1章、第2章及び文化財調査の概要を受け、我孫子遺産をめぐる課題を抽出する。

### (1) 市内文化財の調査・研究・指定にかかわる課題

#### ① 資料調査について

##### 【現状】

平成17(2005)年に完了した市史調査に伴う建造物、民俗(方言、習俗、年中行事等)、写真資料については調査を実施したが、ごく一部に留まっており、実施したものについてもその後の追跡的な調査は行っていない。その他、天然記念物などの動植物や映像資料・音源資料などの比較的新しい資料は文化財としての体系的な調査は実施していない。また、学校資料については文化財としての資料収集は実施していない。

近年、資料所有者が高齢化し、市に寄贈を申し出る案件が増えており、今後、緊急の資料調査件数の増加や、行政が把握できないまま資料が散逸してしまう恐れもある。

##### 【現状から導き出された課題】

分量・質・種類等多岐にわたる資料の調査が必要であり、対応すべき資料調査は増加している。また、市の歴史にとって大切な資料であることの周知が必要

#### ② 研究について

現在、新たに寄贈された資料を中心に研究を進め、「我孫子市文化財報告」としてその成果を刊行しているが、個別のテーマごとの内容となっている。また、埋蔵文化財に関しても「発掘調査報告書」を刊行して市内発掘調査の成果を報告しているが、個別の発掘調査ごとの報告に留まる場合が多い。これらについては、総合的な視点から研究を深めることで、それぞれの我孫子遺産の歴史的・文化的な価値を見いだす必要がある。

資料ごと、調査地点ごとの「報告書」を積み重ねつつ、歴史的な評価を定めることが必要

#### ③ 文化財の指定について

昭和後期から平成前期にかけて実施した「我孫子市史編さん事業」では、市内文化財の把握を行ったが、指定に至らなかったものが多い。当時とは社会的な状況等が変化した部分もあるが、現状把握と意向調査が進んでいない。また指定に当たっては価値付けが不可欠であるが、情報収集が不足している。国の文化財登録制度については、所有者に対しての周知が進んでいない。

文化財指定に関わる基礎的な情報である現状把握、意向調査、評価に関わる調査研究を進めることが必要

## (2) 文化財の保存にかかわる課題

### ①収蔵施設について

#### 【現状】

古文書や民俗資料などは外部施設の倉庫等を借り、分置して保存しており、適切な環境の下で保管しているとは言えない。また、発掘調査で出土した埋蔵文化財は、文化財整理室の収蔵庫で保管しているものの収まりきらず、大半が終末処理場内施設に仮収蔵しているが、仮収蔵場所も空間的に限界を迎えている。

#### 【現状から導き出された課題】

適切な環境下で保管できる収蔵施設の確保が必要

### ②市指定文化財の維持管理について

市指定文化財の建造物については風雨等に伴う損耗箇所が出た場合、価値を損なわないよう適切な修復を実施している。また、最近では展示やイベントでの活用を図り来訪者が増加したが、その結果床や施設の一部に破損が生じている。

その他に仏像などの有形文化財も経年劣化が進んでいるものもある。さらに民間所有の指定文化財については、管理者・所有者の高齢化が進んでおり、維持管理等の継続が難しくなっている。

市指定文化財の価値を損なわないために、日頃からの適切な維持管理に加え、定期的な修復が必要。民間所有の市指定文化財へのサポートが必要

### ③防災・防犯体制について

指定文化財については、リストを作成し消防や警察と情報共有を図っているが、その他の我孫子遺産については情報共有ができていない。また、各施設の防火対策としては消防計画を整備しているものの、防災訓練は年に一度、持ち回りで実施しているのみであり、近隣住民の積極的な参加は少ない。さらに耐震化については、現時点では対応できていない。防犯については、市が管理している指定文化財は警備会社に委託し警備を行っているが、個人・民間所有のものは、所有者の判断に委ねられている。

組織的な防災・防犯体制の整備が必要である

### (3) 文化財の活用にかかわる課題

#### ①我孫子遺産の展示施設について

##### 【現状】

現在、我孫子市には市の歴史や文化を網羅した博物館・資料館のような展示施設はない。市内にある我孫子遺産を展示する常設施設は「湖北郷土資料室」のみである。この施設は湖北行政サービスセンター2階の空き部屋を使用した限られたスペースのため、湖北地区に限定した展示内容となっている。

また、鳥の博物館は平成2（1990）年に開館し、令和2（2020）年で30年となるが、開館以来一度も常設展示のリニューアルを行っていないため、展示内容の時点修正が必要となっているほか、設備の老朽化等も進んでいる。白樺文学館は、2009（平成21）年に我孫子市に寄贈される以前は民間運営で、主に個人のコレクションを展示していた。市立となってからは、寄贈資料が増えたこともあり展示収蔵スペースが不足している。

##### 【現状から導き出された課題】

市の歴史や文化を網羅した常設展示施設や展示スペースが必要

#### ②市民の関心・地域の担い手について

我孫子市には白樺派の文人をはじめ、多くの著名人が暮らし、彼らの足跡が各所に点在している。また古墳や郡衙など、埋蔵文化財も豊富である。しかし、市民ボランティアガイドのように我孫子遺産に関心のある市民もいるが、多くの市民にとって「聞いた事はあるが、詳しくは知らない」というような反応を示される場合が多く、我孫子遺産についての認知が高いとは言えない。また、高齢化によって建造物の管理や、祭礼・民俗行事の継続が難しくなりつつある。

市民の我孫子遺産への認知を向上させる必要がある、地域の担い手を確保する必要がある

#### ③来訪者の回遊を促す際の整備について

手賀沼文化拠点整備計画<sup>1</sup>で整備した我孫子地区以外は誘導板等が少なく、回遊を促進するための交通手段も不足している。また、施設の移転等により、情報が古い誘導板・説明板も見られる。

交通手段の整備が必要、誘導板・説明板を適切な場所に配置し最新の情報・表記に更新する必要がある

1 手賀沼周辺の文化的なポイントを一体のものとして連携させ、積極的な整備・活用を図るための計画。計画期間：平成21（2009）年度～平成30（2018）年度

#### ④小・中学校との連携について

##### 【現状】

市内小・中学校には、要望があった際のみ出前授業や民具の貸し出しなどを行っている。また、学校の歴史や学校生活にかかわるものや、学校の運営や地域との関わりを記した書類などの学校資料の保存・収集・整理・廃棄については、各学校の判断に委ねられている。

##### 【現状から導き出された課題】

教育現場との連携が必要、学校資料の収集や整理が必要

#### ⑤庁内他部署・他自治体との連携について

庁内他部署については、以前は文化財に関する情報共有が不十分で、埋蔵文化財の届出について齟齬が生じ、工事の着工が遅れたことがあったが現在は改善されている。また、他部署が近隣自治体と共同イベントを開催した際、文化財施設を利用したにも関わらず積極的な活用が行われなかったことがある。現在他自治体との連携は、近隣自治体の文化財所管部署との定期的な情報交換のみにとどまっている。

庁内他部署や他自治体との連携強化が必要

行政資料については、永年保管される文書があるものの、保存年限については文書作成者に委ねられているため、歴史的な観点での文書保管がされていない。

#### ⑥情報発信について

我孫子市では、歴史・文化に関するホームページである「あびこ電腦考古博物館」を運営しているが、ほぼ埋蔵文化財についての情報で、市史等に関する情報の掲載が少ない。また、市内の公共施設で市指定文化財施設等のパンフレット・イベント時のポスターやチラシの配布等を行っているものの、効果は薄い。市外に向けての情報発信は広報部署を通して行っているが、十分ではない。

ホームページの情報不足、市内外へ向けての積極的な情報発信が必要



### 3 保存・活用の基本目標

#### 「ものがたり」を通じた我孫子遺産の磨き上げ

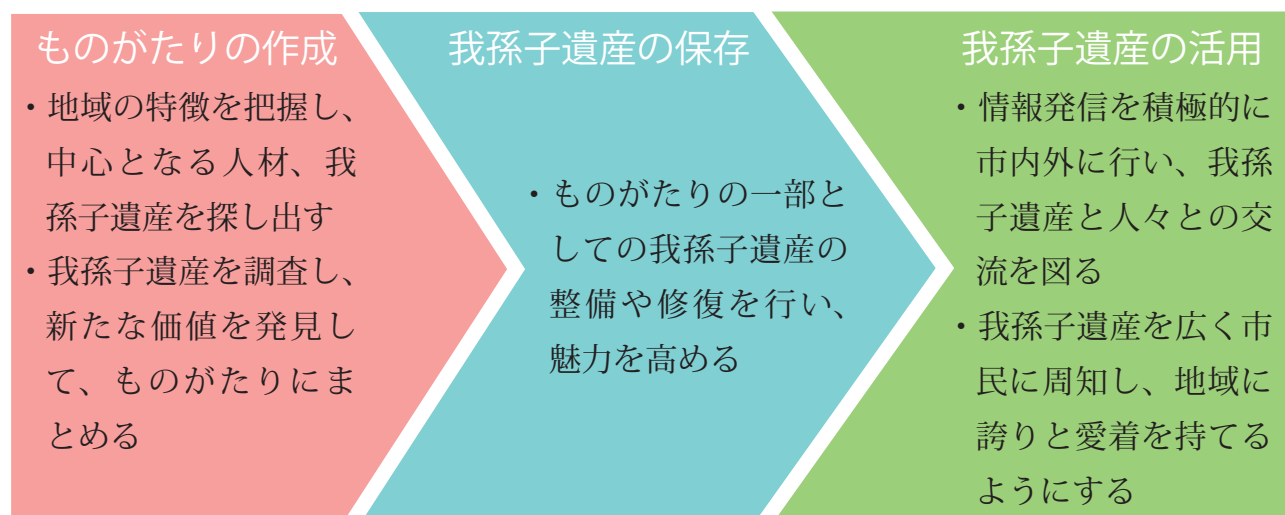
我孫子遺産の中には、個々では十分にその魅力を発揮できないものも多い。そのような我孫子遺産同士をつなぎ合わせることで我孫子の歴史文化の魅力をいくつかの「ものがたり」としてまとめることが可能である。

「ものがたり」の中で、個々の我孫子遺産は磨き上げられ、その輝きを増していく。

#### 「ものがたり」とは

- ・我孫子市では、市民や地域にとって「大事なもの」「価値があるもの」を「我孫子遺産」としている
- ・「我孫子遺産」同士を結び付けていくといくつかの「ものがたり」を作ることができる
- ・「ものがたり」をつくることで、我孫子市の歴史文化にまつわる魅力をわかりやすく伝えることが可能になり、また、「ものがたり」を通じて我孫子遺産を総合的・一体的に保存・活用することが、我孫子市の地域アイデンティティーである歴史文化の持続につながる

「ものがたり」の作成と我孫子遺産の保存・活用のプロセスは以下の通りであり、作成した「ものがたり」については P77 以降に掲載した。





## 4 我孫子遺産の保存・活用に関する方針

個々の我孫子遺産を「ものがたり」として取りまとめることで、我孫子遺産が示す地域的特色を、市民にとってわかりやすく伝えることができる。

この「ものがたり」を通じて我孫子遺産を保存・活用するために、

- ・人々が我孫子遺産に興味を持ち、身近に感じることでできるようハード・ソフト両面から整備する。
- ・防災・防犯について地域住民や消防署・警察署などとの協力体制を作り上げる。
- ・地域住民や市民団体、民間事業者と連携し、我孫子遺産に関連したイベントの企画や運営を行う。
- ・教育機関と連携し、学習の素材として我孫子遺産を利用できるよう、体制を整える。

といったアクションを起こしていくことで、諸々の課題を解決する。

### (1) 調査・研究・指定にかかわる方針

#### ①我孫子遺産の調査について

##### 文化財専門職員の配置

調査を進めるために、専門知識を持った人材を配置するとともに、業務に必要な知識の向上を図る

##### 我孫子遺産の把握・調査・整理

未調査の我孫子遺産を調査・整理する。また、新たな我孫子遺産の把握を行う

#### ②研究について

##### 報告書の刊行

調査に基づく個別研究を積み上げ、複数の資料群、調査地点を横断した「体系的」な研究を進め、総合的な考察を含めた報告書を刊行し、歴史的な評価を定めていく

#### ③文化財の指定・登録について

##### 我孫子遺産の指定への取り組み

調査・研究の成果を受け、積極的に市指定文化財に指定していく。国登録有形文化財についても所有者に積極的に働きかけを行っていく

##### 我孫子遺産管理カルテの作成

我孫子遺産の状態を把握する管理カルテを作成し、修復、モニタリングの際等に活用する

## (2) 保存にかかわる方針

### ① 収蔵施設について

#### 収蔵施設の整備

我孫子遺産を適切に保管できる収蔵施設を整備する。整備にあたっては、公共施設の空きスペースなど既存建造物を収蔵スペースとして活用していく

### ② 我孫子遺産の維持管理について

#### 市指定文化財の適切な維持管理と修復

日頃から小修理を含む適切な維持管理を行い、必要があれば適切な時期に大規模な修復を実施する

#### 我孫子遺産活用のための措置

我孫子遺産の保存処理、デジタル化、レプリカ作成、映像での記録を行い、災害等の不測の事態に備えるとともに、展示や閲覧などに活用する

### ③ 防災・防犯体制について

#### 防災体制の整備

災害発生時に対応できるよう、指定文化財（建造物）及び展示施設で消防計画を作成し防災訓練を定期的に行うとともに、定期的に防災訓練を行う。民間所有の市指定文化財についても消防計画の作成を働きかけを行う。また、我孫子遺産についてもリスト化し、消防署や警察署と情報共有を図る。大規模災害が生じた場合に備え、文化財レスキュー事業<sup>1</sup>と併せ、県内や近隣の資料救済ネットワーク等と連携できるよう体制を整える

#### 防犯体制の整備

我孫子遺産をリスト化して警察署と情報共有を図り、盗難等が起きた際に速やかに対応できるようにする

#### 防災・防犯を通じた地域連携、我孫子遺産への愛着の強化

講習会等で地区の我孫子遺産の大切さを地域住民に周知し、「大切な地域のたから」を守る意識を醸成する。また、近隣住民や自治会と連携をはかり、見回り等の体制づくりをめざす。具体的には我孫子遺産防災・防犯サポーターとして、火災や盗難を未然に防ぐための定期的な見回りと、災害発生時に我孫子遺産の被害報告を行う

1 文化庁による被災文化財等救援事業（通称：文化財レスキュー事業）：自然災害により被災した美術工芸品を中心とする文化財等を緊急に保全し、廃棄・散逸や盗難の被害から防ぐため、災害の規模・内容に応じて文化庁が立ちあげる事業

### (3) 活用にかかわる方針

#### ①我孫子遺産展示施設について

##### 我孫子遺産展示施設の整備

我孫子市の歴史や文化について、多くの来訪者が望める施設内に市の歴史や文化を網羅した博物館・資料館のような展示施設を整備する

##### 魅力的な展示空間の整備

展示方法や内容を検討し、来訪者にわかりやすい展示をめざす

##### 鳥の博物館のリニューアル

展示や施設について、博物館の魅力がアップするようリニューアルを行う

##### 白樺文学館のリニューアル

収蔵スペースや展示スペースを確保し、魅力を高めるようリニューアルを行う

#### ②市民の関心・地域の担い手について

##### 地域住民の参画

新たな我孫子遺産の発見に向けた地域住民参加型のワークショップ等を行い、市民の関心・理解を深める。また、我孫子遺産の保存・活用について若い世代への働きかけを行う

##### 我孫子遺産についての冊子作成

我孫子遺産について、子どもから大人まで誰もが楽しめる冊子を作成する。冊子は日本語だけでなく、英語や韓国語など外国語版も作成する

##### イベントの企画

我孫子遺産に興味を持ってもらえるよう、それぞれの特色を活かしたイベントの企画・運営を行う。運営に際しては、地域住民・団体・事業者等も取り込むことをめざす

##### ボランティアガイドの拡充

市民の関心を高めるため、ボランティアガイドの体制を整え、運用する

##### 資料調査ボランティアの新設

我孫子市の歴史資料に触れてもらい、資料への関心・理解を深めるボランティア制度を検討する

##### 市民団体との連携

我孫子遺産について情報を共有する

## ③来訪者の回遊を促す整備について

## 回遊ルートの設定、観光案内板、誘導板・説明板の設置

駅及び市内施設の駐車場を活用し、我孫子遺産の回遊ルートを設定する。案内板や誘導板等については、適切な箇所に設置する。作成に際してはQRコード等を用い、多言語化したホームページにリンクするなど、来訪者にとって分かりやすいものにする。また、既存のものについても最新の情報・表記に更新する

## 駐輪スポットの整備

自転車での回遊を推進するため、駐輪スポットの設置をめざす

## ④小・中学校との連携について

## 学校を取り巻く環境の整備

我孫子遺産の授業活用として、出前授業・資料の貸し出しなどを行う。また、学校資料の保存・整理等について学校と連携していく

## 調べ学習へのサポート

学校図書館と連携を図り、郷土資料コーナーの設置や充実について検討する。また、我孫子市の歴史について、子どもが理解できる書籍を作成する

## ⑤庁内他部署・他自治体との連携について

## 生涯学習施設等との連携

市民図書館や公民館、鳥の博物館と連携し、講演会やイベント等の企画や展示・グッズ販売、広報活動等を実施する

## 近隣センターとの協力

市内に10館ある近隣センターでは、散策マップやチラシの配布のほか、散策時のトイレ等休憩時に立ち寄ることができるよう、協力を求めている

## 他自治体との連携

資料の収集や回遊ルートの開発などについて、手賀沼・利根川に隣接する他自治体と連携できるよう体制を整える

## ⑥情報発信について

## 情報発信の充実

ホームページについては、360度カメラや3Dなどの先端技術を用いて、我孫子遺産に興味を持ってもらえるものにする。また、研究者用のコンテンツとして、デジタル化した歴史資料の公開や、刊行済み報告書の閲覧等を行えるようにする。市内我孫子遺産の歴史や魅力を伝えるイベント等を開催する際は、積極的な情報発信を行う

### 民間事業者等との連携

市内外の事業者に協力を呼びかけ、情報共有を行うとともに、我孫子遺産とコラボレーションしたオリジナルグッズの開発等についても検討する

### 情報発信手法の検討

対象者を市民のほか、近隣市や都心からの日帰りの来訪者に絞り、対象者に情報が届くよう発信手法を検討する

## 5 4つのものがたり

我孫子遺産は、第2章 P54 で述べた通り 5つの属性に分けることができる。しかし、我孫子遺産は単一の属性のみで成立しているものではなく、我孫子市の歴史文化の特徴をふまえると、「ものがたり」という別の形にまとめることができる。

本計画では、我孫子遺産をわかりやすく捉え、総合的・一体的に保存・活用するために、次の4つの「ものがたり」を作成した。

### 水のものごと

- (1) 水がもたらす豊かな恵み
- (2) 洪水との闘い

主な我孫子遺産の属性

- ①自然にかかわる我孫子遺産
- ②人々の暮らしにかかわる我孫子遺産
- ④祭祀や信仰に関わる我孫子遺産

手賀沼と利根川に囲まれたこの地は、水による恵みと被害を受けてきた。我孫子市の成り立ちに欠かせない要素である。

### まちのものごと

- (1) 古代のまち「相馬郡衙」
- (2) 江戸時代のまち「我孫子宿」と「布佐湊」
- (3) 大正時代のまち「文化人の集う別荘地」

主な我孫子遺産の属性

- ②人々の暮らしにかかわる我孫子遺産
- ③地域社会や産業・交通にかかわる我孫子遺産
- ⑤人々の記憶と記録にかかわる我孫子遺産

当時の輸送手段である船の発着場から発展したまちは、鉄道の開通とともに文人たちの別荘や住居が集まるまちとなり、薫り高い文化空間を形成した。

### みちのものごと

- (1) ヒト・モノ・情報を結ぶ「みち」
- (2) 心を結ぶ「みち」

主な我孫子遺産の属性

- ①自然にかかわる我孫子遺産
- ③地域社会や産業・交通にかかわる我孫子遺産

まちとまちを人々が行き交うことで、「水戸道中」や「成田道」などの「みち」が発達した。現在、多くの市民が日常的に使用する道も、歴史を重ね合わせることで、過去とのつながりを実感することができる。

### 伝承のものごと

- (1) 平将門伝承
- (2) 塚と手賀沼の伝承

主な我孫子遺産の属性

- ①自然にかかわる我孫子遺産
- ④祭祀や信仰に関わる我孫子遺産

人々が集まり文化が形成されていく中で、心の根底にある信仰心、恐れ、不安などが伝承という形を借りて語り継がれてきた。日々の暮らしの中で生み出された伝承も我孫子市の精神風土を語るうえで欠かせないものである。

P77 から、この4つの「ものがたり」の内容について詳述していく。



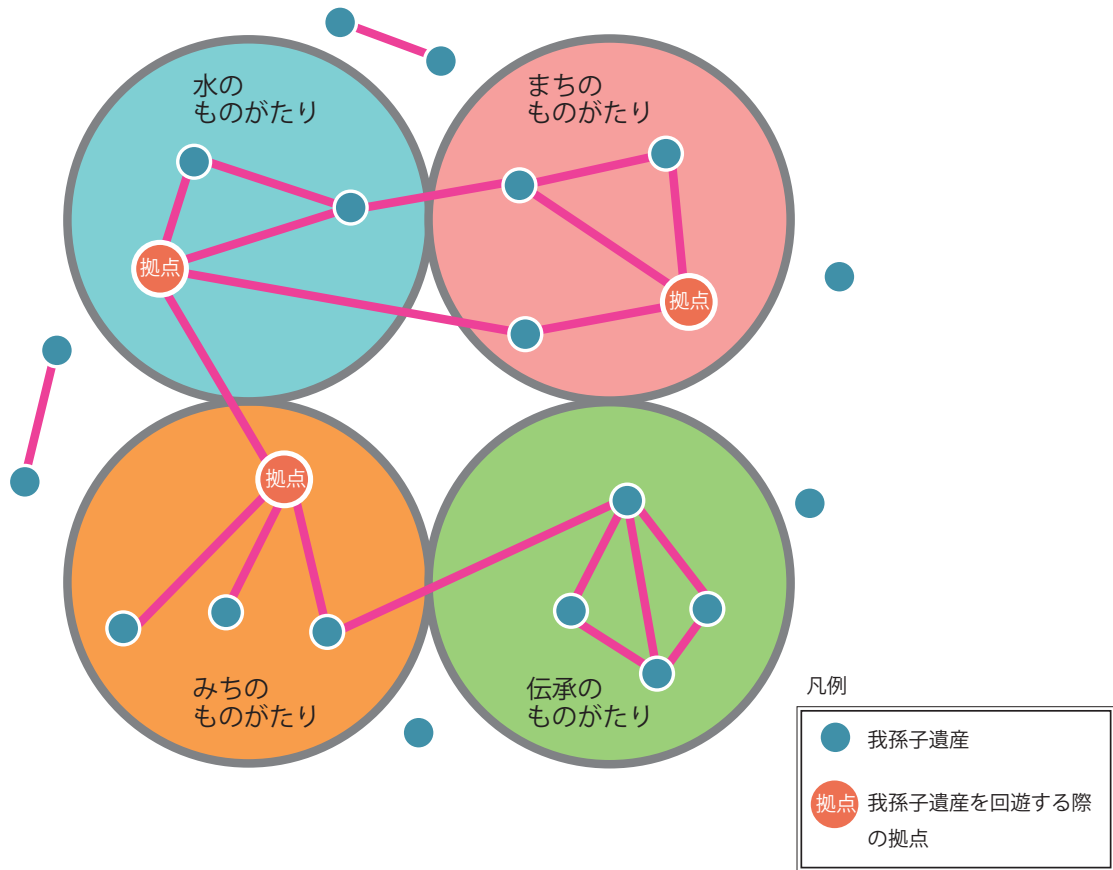


図34 ものがたりと我孫子遺産との関係図

凡例

- 水のものがたり
- まちのものがたり
- みちのものがたり
- 伝承のものがたり

図35 各ものがたりに関連する我孫子遺産の所在

## 水のものがたり

水は古来より恵みを与えてくれる存在であった。しかし、水は時に人々に災いをもたらす存在でもあり、我孫子市の歴史には水の恵みと災いが表裏一体となって存在している。そしてそのどちらの面からも我孫子市にとって重要な我孫子遺産が生み出されている。

### (1) 水がもたらす豊かな恵み

市内各所に見られる遺跡や古墳は、水辺を見下ろす丘の上に造られている。これは古代の人々が飲み水を確保する水場や漁獵・鳥獵の場として、また、物資運送に使用された利根川と手賀沼、水田が作られた谷津に近く、かつ安定した土地を選んだためと考えられている。「ハケの道」沿いの水神社は台地と新田の境目であり、水の恵みを祈る場であった。鳥の博物館には数多くの標本が展示されているが、かつて手賀沼は鴨類の格好の猟場として組織だった鳥獵が行われた。捕獲した鴨を売ることによって、江戸・東京からもたらされる現金収入は地域を潤すこととなった。

また、江戸時代の利根川の湊であった布佐、干拓によって生まれた手賀沼干拓地は、豊かさを追い求めた人々の足跡と言える。江戸時代の布佐湊は利根川舟運によって江戸と直接結ばれた。その隆盛を物語るものとして、湊での商いで成功した榎本次郎右衛門邸や、神輿と山車が練り歩く竹内神社の祭礼などが挙げられる。明治時代になってもなお栄えていた布佐には、優秀な人材を見出し、育てることができる優れた文化があった。気象学者岡田武松は、そのような背景から生まれたと考えられる。

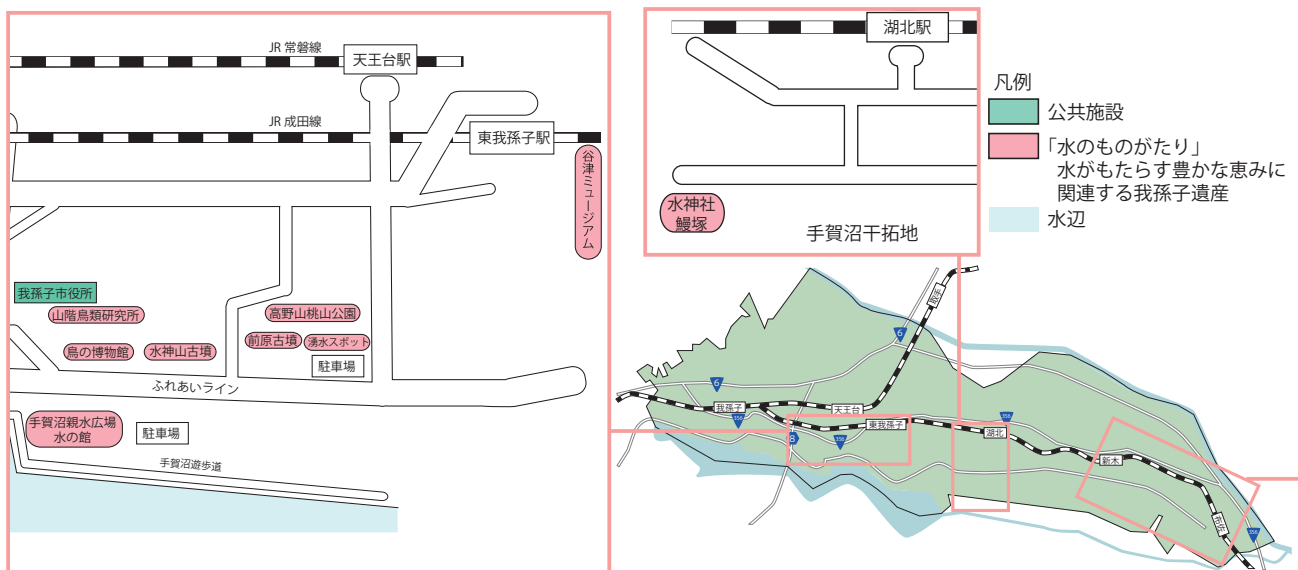


図36 水がもたらす豊かな恵みに関連する主な我孫子遺産や施設

水のものがたり～水がもたらす豊かな恵みに関連する我孫子遺産

名称	概要
鳥の博物館	「人と鳥との共存を目指して」を合言葉に、鳥に関する調査研究と展示を行うほか、手賀沼に飛来する鳥の生態調査なども行っている日本唯一の鳥類専門の博物館
手賀沼親水広場「水の館」	手賀沼の水質の変化に伴う生物の変遷や、漁業などに関する展示を行っている
水神山古墳★	全長 69m、4 世紀末の千葉県北西部地区最大の前方後円墳。手賀沼を見下ろす台地の上にある
前原古墳	我孫子市内最古の古墳。手賀沼を見下ろす台地の上（高野山桃山公園内）にある
手賀沼	手賀沼沿岸の地域に水の恵みをもたらした
利根川	鮭漁や、東北や江戸、北関東を結び、舟運によって近隣に恵みをもたらした
布佐湊	利根川の舟運の際、荷上場として重要な役割を担った
竹内神社例大祭★	江戸時代の布佐湊の繁栄をいまに伝える祭り
竹内神社	布佐地区の中心となる村社
榎本次郎右衛門邸	布佐湊や布佐町の名士の住宅。当時の趣を残す
旧岡田武松邸跡	布佐で生まれた気象学者岡田武松の屋敷跡地。現在は近隣センター「ふさの風」が建ち、地域の中核となっている
旧井上家住宅★	江戸時代に手賀沼の新田開発のため、江戸から移住し、名主となった
浅間神社	富士山を祀る。手賀沼から見える小高い丘が農作業や漁業を行う際の目標となった
稲荷神社（布佐下）	手賀沼の新田開発により、豊作祈願のため建てられた神社
水神社（都部新田）	手賀沼の新田開発により、治水祈願のため建てられた神社
湧水スポット	台地から低地（手賀沼沿岸）へと流れている
谷津ミュージアム	里山の保全を行う中で、ホタルやヒカリモが息するようになった
金塚古墳出土遺物★	常総型石枕は利根川中下流域に分布しており、地域のつながりを示している
鰻塚	手賀沼では鰻漁が盛んであったため、供養として建立されたと考えられる
猟具	手賀沼独自の猟法に合わせた漁具や鳥猟で使用した民具

★は指定文化財

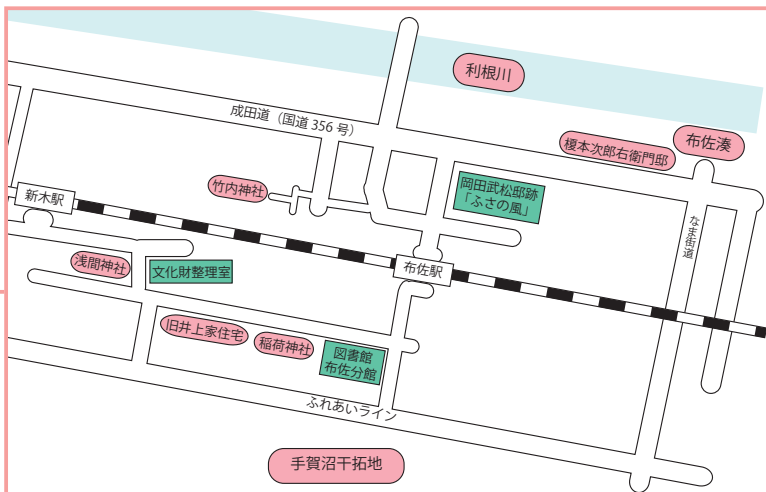


写真 63 竹内神社例大祭

## 水のものがたり

### (2) 洪水との闘い

人と水との近さは、「洪水」という災いを人々にもたらすこととなった。我孫子市域の低湿地部では度々洪水が発生した。なかでも布佐は江戸時代以来、利根川の洪水被害を多く受けている。湊としての機能を優先した低い堤防では洪水を防ぐことはできなかった。また、旧井上家住宅の土蔵は「水塚」と呼ばれる高まりの上に建てられているが、これは手賀沼干拓によって生み出された土地に度々起こる洪水（内水氾濫）から大切な財産を守る仕組みである。残された洪水の記録は、人々が何度も壊滅的な洪水被害に遭いながらも、まちを復興させ、その場で暮らし続けたことを示している。水の恵みを祈る水神社はまた、水の災いから逃れるための祈りの場でもあった。

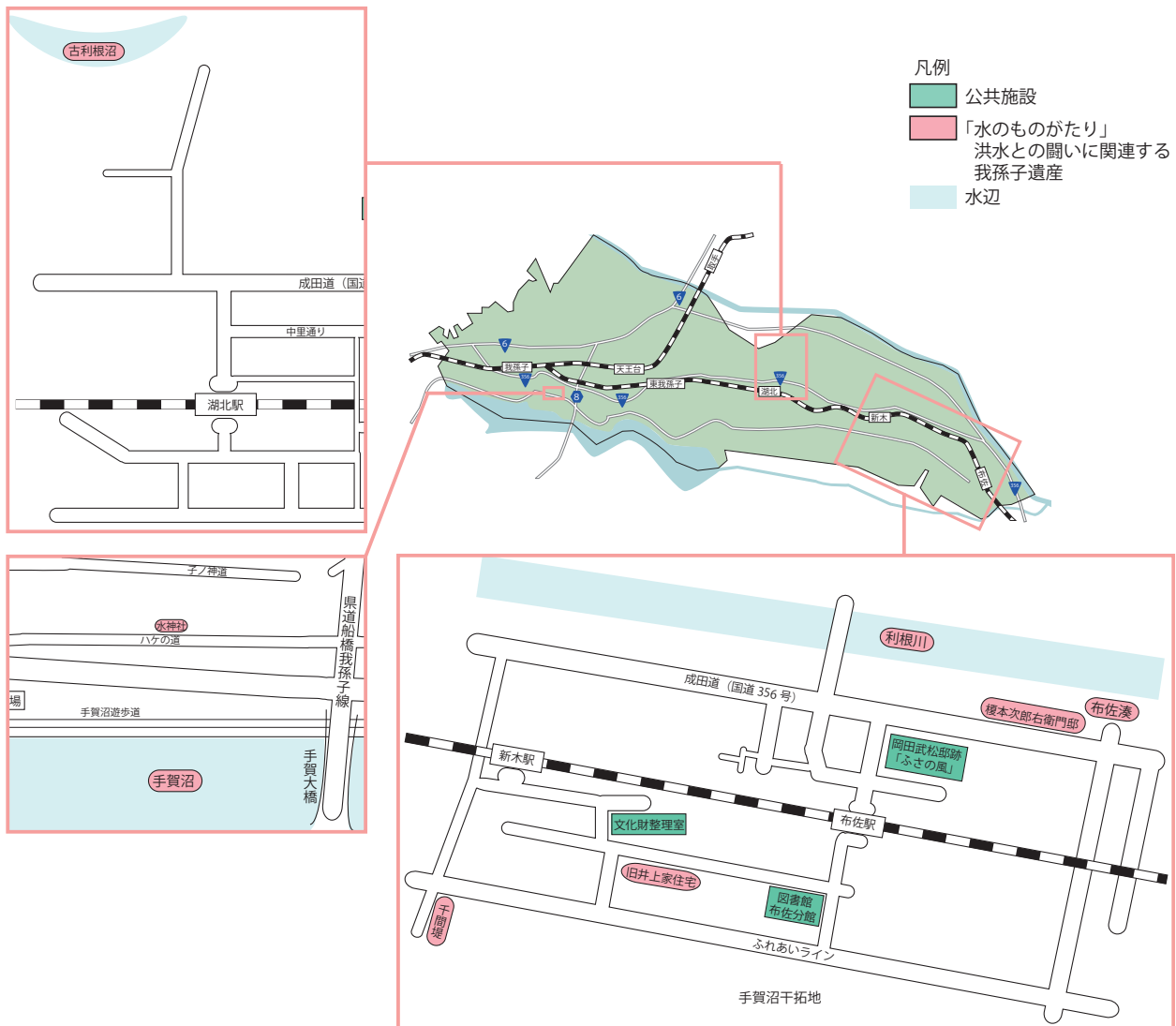


図 37 洪水との闘いに関連する主な我孫子遺産や施設



水のものがたり～洪水との闘いに関連する我孫子遺産

名称	概要
手賀沼	新田開発によって稲作などによる収穫はあったものの、度重なる洪水は人々を苦しめた
利根川・布佐湊	利根川に沿って開けた布佐湊は度々の洪水に悩まされた
水塚	洪水から家財や稲を守るため、土を盛って蔵を建てた。旧井上家住宅などに認められる
千間堤	江戸時代、手賀沼を干拓するため作られるが、完成した数年後、享保 19 (1734) 年の洪水で切れ、そのまま放置された
水神社 (都部新田)	水害や水の事故が起こらないよう祈願のため建てられた
波除不動	利根川の出水が激しいため、昭和 5 (1930) 年に建立された
古利根沼	利根川改修工事に伴い、蛇行した利根川が取り残され、沼として残った
榎本次郎右衛門邸	利根川の改修工事に伴い、もともと川に向かって建てられていた門が移築され、現在に至る
手賀沼殉難教育者之碑	昭和 19 (1944) 年、水難事故に遭った校長と 17 人の女教員を悼み、昭和 23 (1948) 年に建立された

第 3 章



写真 64 布佐の洪水の様子  
(『我孫子～みんなのアルバムから～』より)



写真 65 旧井上家住宅の水塚と二番土蔵



写真 66 手賀沼殉難教育者之碑

## まちのものがたり

利根川や手賀沼に惹きつけられた人々は、集まって暮らし、「まち」を形作った。我孫子に作られた「まち」としては、古くは湖北地区の相馬郡衙、江戸時代には我孫子宿と布佐湊、大正時代の別荘地がある。「まちのものがたり」は我孫子が人や文化の拠点として機能していたことを示す重要な視点である。

### (1) 古代のまち「相馬郡衙」

郡衙はもともと古墳時代の豪族が暮らしていた集落を、奈良・平安時代の政府の指導の元に再編成して作った「地方都市」である。相馬郡衙は約1km四方に広がり、税金である「租」として徴収したコメを収める「正倉」（日秀西遺跡）、郡衙での事務仕事を担う人々が集う「曹司」（別当地遺跡・西原遺跡）、郡司が住む「館」もしくは饗応を担う「厨」（野守遺跡）、郡衙で使用する金属などを加工する「修理所」（君作遺跡）など、様々な機能をもった施設が区画溝に囲まれて点在している。これらの郡衙関連遺跡群からは都で作られた土器や陶器、金属製品が多く出土する。これは、仕事で平城京や平安京を訪れた「郡司」と呼ばれる役人たちによってもたらされたものである。また、当時の知識人である役人や僧侶しか扱えなかった「文字」が書かれた土器が多く出土することも郡衙の特徴である。この古代地方都市は平安時代になると衰退し、かわって新木地区の羽黒前遺跡周辺が発展した。ここから発掘された方形居館跡は、相馬御厨と呼ばれる平安時代の荘園の中心と考えられ、次第に郡司が地方豪族化していく様子を示している。

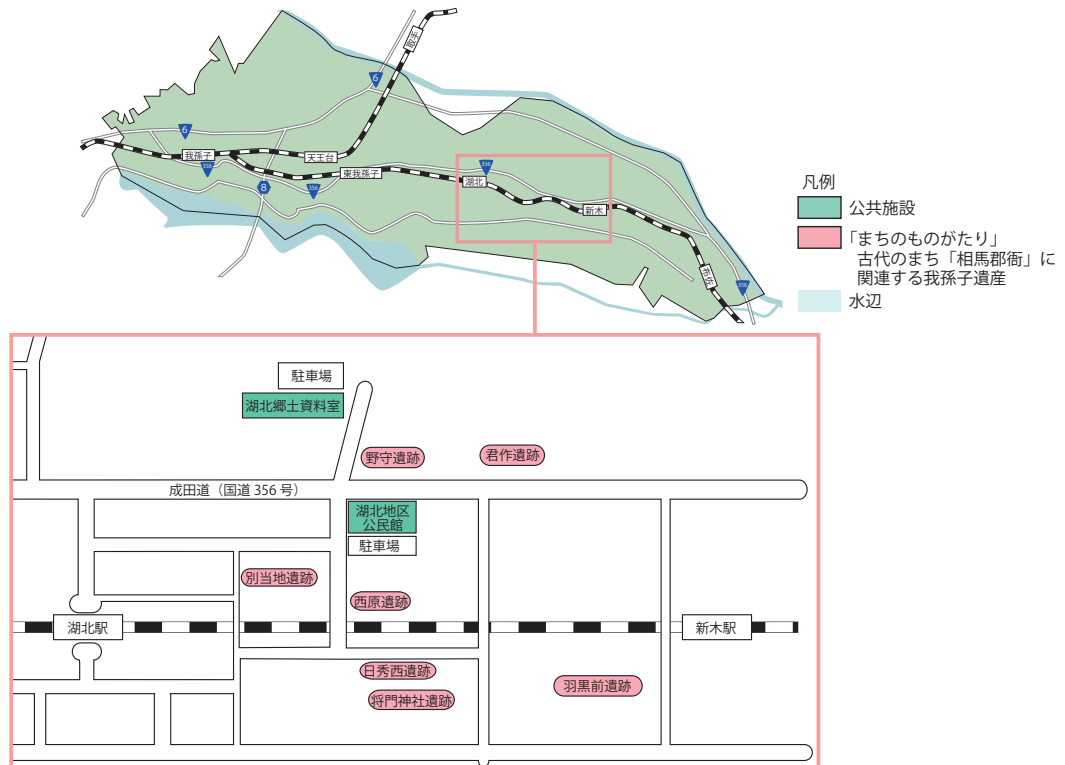


図38 古代のまち「相馬郡衙」に関連する主な我孫子遺産や施設



まちのものがたり～古代のまち「相馬郡衙」に関連する我孫子遺産

名称	概要
地名・人名墨書土器★	墨書土器が出土した新木地区は、郡衙周辺の集落として発展した。当時はとても少ない識字層が居住していたことを示す
相馬郡衙★	相馬郡衙正倉跡（日秀西遺跡）が県指定文化財となっており、その周辺には以下の郡衙に関連する多くの遺跡が点在している
日秀西遺跡★	6世紀から7世紀の竪穴建物 188 棟からなる集落の後に 7 世紀末から 10 世紀にかけて掘立柱建物・基壇建物 51 棟が中央の広場を囲むように「口」字形に造られる。掘立柱建物は重量物に耐える総柱式であり、基壇建物に建て替えられるものもあるが、掘立柱の埋め土から炭化米が出土することから、郡衙正倉であると考えられる
将門神社遺跡	郡衙正倉の南限の区画溝が確認できる。西原遺跡の北東隅と繋がると想定すると郡衙正倉は 250m 四方となる
別当地遺跡	7～9 世紀の竪穴建物を中心とする。掘立柱建物も混在するが、日秀西遺跡のもの比べると規模は小さい。北側に東西方向の区画溝が確認できる。竪穴建物からは転用硯、金属製品などが出土し、東隣の西原遺跡と合わせて、郡衙で働いた人々（郡雑任）が集う曹司と考えられる
野守遺跡	7 世紀～ 10 世紀の竪穴建物、掘立柱建物、区画溝からなる。特に 8 世紀初頭の竪穴建物は一辺 11 m を超える巨大なもので、湖西産須恵器や畿内産土師器、銅製帯金具、鉄製鉤（倉庫のカギ）、墨書土器「介」などが出土する。郡司が住む館、饗応のための食器管理や調理を担う厨と考えられる
君作遺跡	郡衙関連遺跡北東隅に位置する。9・10 世紀を中心とする竪穴建物と掘立柱建物からなる。竪穴建物には鋳造遺構を伴うもの、漆紙付着土器、鉄製の権（秤の錘）、墨書土器「丁」などが出土する。工房、修理所と考えられる
羽黒前遺跡（方形居館跡）	郡衙が衰退したのち、場所を移動し、新たにまちの中心が発展したことがわかる貴重な事例

★は指定文化財



写真 67 日秀西遺跡から見た谷津の様子

図 39 日秀西遺跡及び周辺の遺跡

まちのものがたり

(2) 江戸時代のまち「我孫子宿」と「布佐湊」

江戸時代に作られた我孫子宿と布佐湊は、水戸道中と利根川舟運によって開かれたまちである。利根川の渡河を控え、我孫子宿には公的な旅客の宿泊所「本陣」、物資や馬を管理する行政機関「問屋場」などが置かれたほか、一般の旅客が宿泊に利用する旅籠などの商いが行われた。宿場周辺の村々は、大名の往来の際に馬や人足を提供する「助郷役」によって過大な負担が求められた。宿場は身分の上下を問わず様々な人々が往来し、後に東京からやって来た嘉納治五郎や白樺派など文人たちや別荘人を受け入れやすい環境であったと言える。

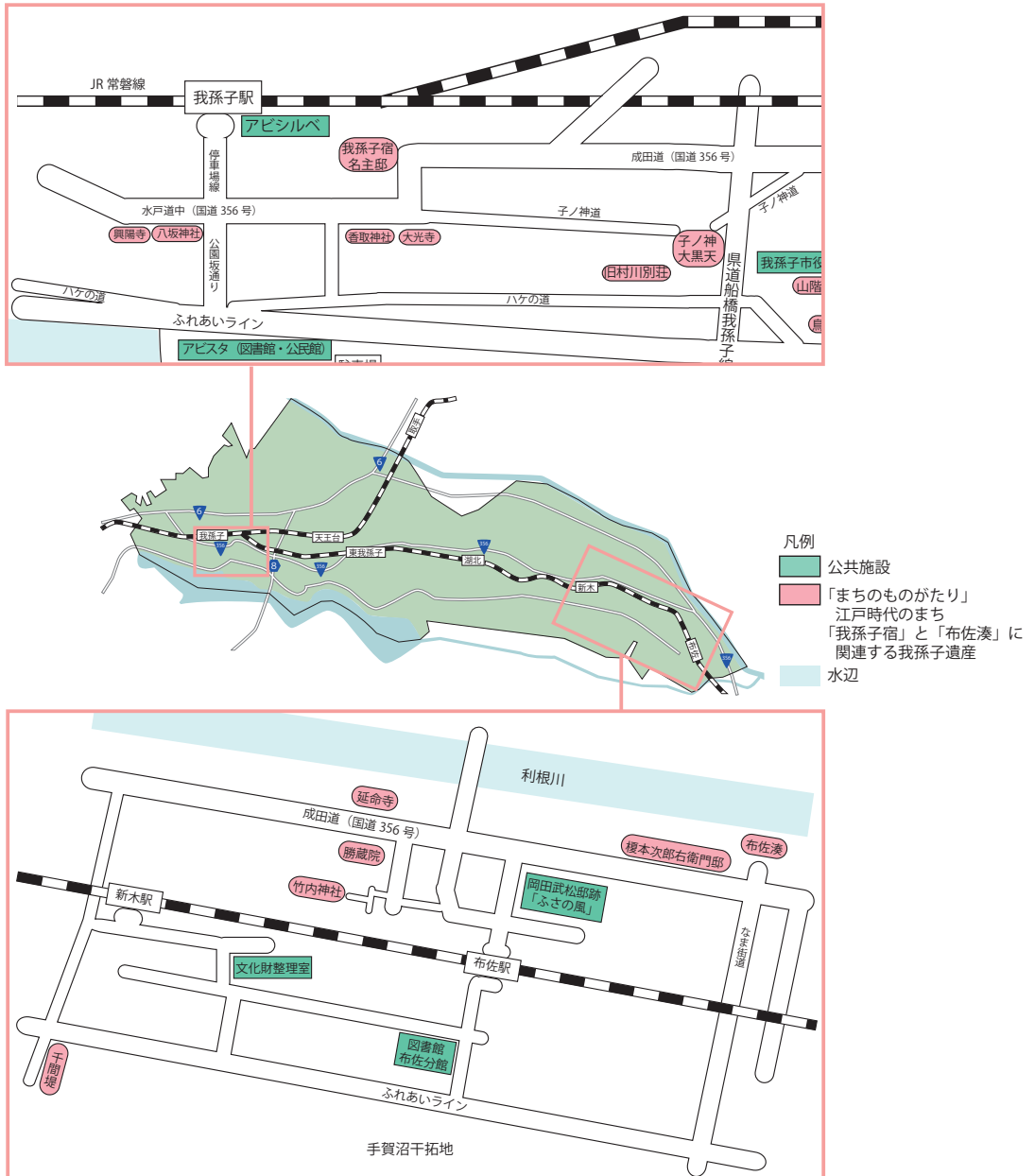


図40 江戸時代のまち「我孫子宿」と「布佐湊」に関連する主な我孫子遺産や施設

まちのものがたり～江戸時代のまち「我孫子宿」と「布佐湊」に関連する我孫子遺産

名称	概要
我孫子宿	江戸時代の面影を残す建物は少ないが、江戸時代、宿が形成されていたことがさまざまな書物から明らかになっている。特に『水戸土浦道中絵図』を見ると、宿の形状が江戸時代から継承されていることがわかる
興陽寺	室町時代の開山。江戸幕府の旗本山高氏の菩提寺
大光寺	室町時代の開山。本尊不動明王
香取神社	我孫子宿に住む人々が催事を行ったりと人々の拠り所であった
八坂神社	我孫子宿の西端に位置する神社。現在も例年7月に祭りが開催されている
我孫子宿旧名主邸	我孫子宿の名主邸。市内で唯一茅葺屋根の建物が残る
旧村川別荘母屋★	我孫子宿本陣離れを移築し、別荘として活用した
布佐湊	布佐の街並みには当時の布佐湊の繁栄を残す建物は少ないが、寺社と道中が川に並行している街並みからは河岸として発展した様子がわかる
榎本次郎右衛門邸	今も残る布佐湊の名士の家

★は指定文化財



写真 68 明治 44 (1911) 年頃の  
我孫子宿の様子。奥に見える林は八坂神社  
(『我孫子～みんなのアルバムから～』より)



写真 69 榎本次郎右衛門邸表門



写真 70 大正 6 (1917) 年頃の布佐の町並み  
堤防が低かったため、左奥には利根川が見える  
(『我孫子～みんなのアルバムから～』より)



まちのものがたり

(3) 大正時代のまち「文化人の集う別荘地」

明治時代の鉄道開通は東京との距離感を一挙に縮めた。明治44(1911)年に嘉納治五郎が手賀沼を見下ろす丘の上に別荘を所有したことを皮切りに、我孫子は東京近郊の別荘地となり、環境の良さから白樺派の志賀直哉・武者小路実篤・柳宗悦や杉村楚人冠のように定住するものもあらわれた。志賀直哉や杉村楚人冠の小説や随筆から、当時の我孫子の様子を垣間見ることができる。「別荘地としての我孫子」は昭和初期まで継続し、太平洋戦争後に郊外住宅地となることによって終焉を迎える。手賀沼を見下ろせる景勝地であり、かつ東京近郊という特性を活かしたものが、それが別荘地であり、この地の大きな特徴でもある。



写真 71 旧武者小路実篤邸跡



写真 72 旧村川別荘

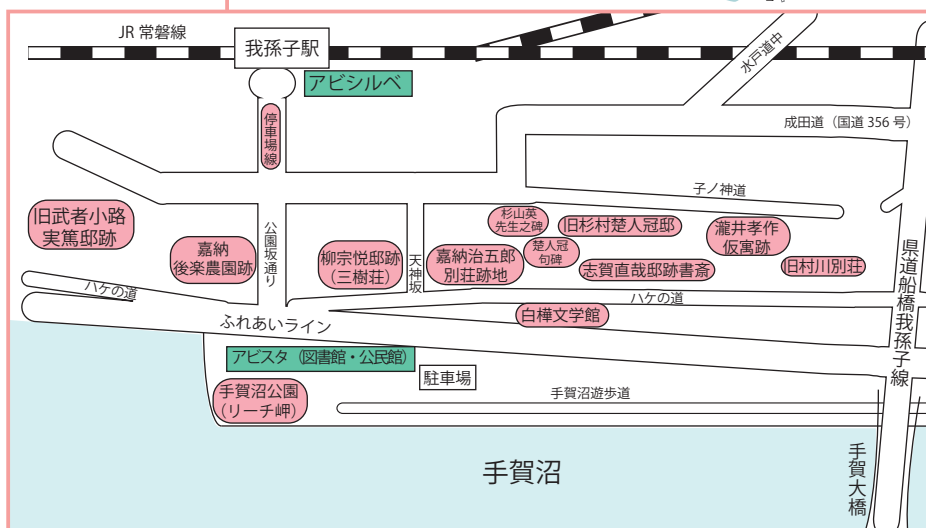
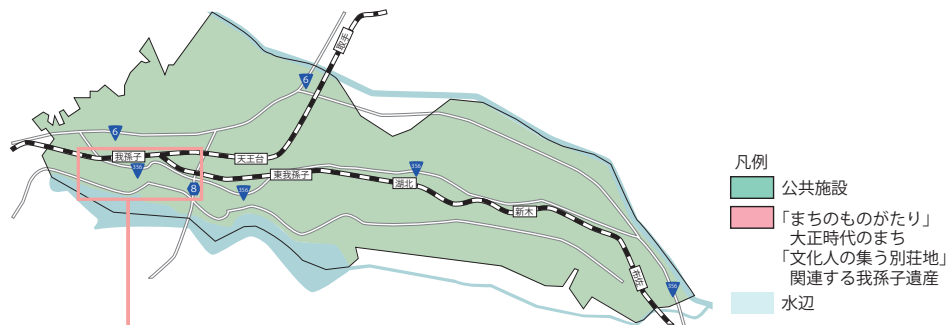


図 41 大正時代のまち「文化人の集う別荘地」に関連する主な我孫子遺産や施設

## まちのものがたり～大正時代のまち「文化人の集う別荘地」に関連する我孫子遺産

名称	概要
嘉納治五郎別荘跡	別荘地として注目されはじめた明治44（1911）年、現在の緑1丁目に別荘を持った
嘉納後楽農園跡	明治44（1911）年に白山1丁目付近に土地を取得し、かぼちゃ、桃などを栽培した。嘉納治五郎の没後に農園は売却され、分譲住宅地となった
嘉納治五郎先生之像	令和2（2020）年4月、彫刻家朝倉文夫が制作した嘉納治五郎先生之像が、嘉納治五郎別荘跡地に手賀沼を臨むように建てられた
嘉納治五郎の書	市内には嘉納治五郎が書いた書が複数残されている
杉山英 <sup>えい</sup> 先生之碑	杉山英は我孫子尋常小学校校長を務め、血脇守之助などを指導した人物。碑の題字は嘉納治五郎
志賀直哉邸跡書斎★	大正4（1915）年～同12（1923）年まで居住し、作品を創作した。書斎は地元大工の作
バーナード・リーチ碑	三樹荘に身を寄せ、窯を設置し、作陶に励んだ
旧武者小路実篤邸跡	志賀直哉に呼ばれ、移住した。新しき村の発会式をこの地で行った
原田京平関係資料	志賀直哉が去った後、その家に住んだ。手賀沼やハケの道などの景色を絵画として残した
天神坂	白樺の文人たちが往来した坂
三樹の木	古くから地元の人々に大切にされた3本の椎の木。この木は、景観法に基づく景観重要樹木に指定されている
三樹荘	3本の椎の木が邸内にあったため、嘉納治五郎が三樹荘と名付けた。柳宗悦が家族で住んでいた
瀧井孝作仮寓跡	作家、俳人。大正11（1922）年から1年ほど、志賀直哉に誘われてこの地に住む
白樺文学館	当地における白樺派の文人の活動を紹介する文学館。志賀直哉邸跡前に位置する
旧杉村楚人冠邸★	明治45（1912）年に別荘地として土地を購入し、関東大震災を機に東京から家族で移住。大正～昭和前期の建物が残る
楚人冠句碑	陶芸家河村蜻山が作陶した杉村楚人冠の句碑
杉村楚人冠関係資料	昭和初期の当地の様子がわかる書簡や日記が残されている
旧村川別荘★	市内に現存する唯一の別荘建築
手賀沼	手賀沼の景観に魅了され、明治時代以後、様々な文化人が訪れた
リーチ岬	バーナード・リーチが描いた手賀沼を彷彿とさせる風景が残る場所
志賀直哉小説	『流行感冒』や『十一月三日午後の事』など、志賀直哉が我孫子を舞台に書いた小説。
杉村楚人冠『湖畔吟』	杉村楚人冠の随筆。我孫子の地での生活の様子をユーモアあふれる文体で綴っている

★は指定文化財

## みちのものがたり

「みち」は現在も多く多くの市民が往来する生活道となっている。かつて中央政権が使用した「みち」はヒト・モノ・情報などを素早く伝達し、支配を広げるため用いられた。一方、人々が生活するうえで使用した道は狭いながらも、生活に寄り添い、人と人が心を通わせた。2つの「みち」は歴史を重ね合わせた時、いずれも身近な我孫子遺産となり、現在と過去をつなぐものとなる。「みち」はまた、様々な我孫子遺産をつなぎ、我孫子遺産によってつながれている。

### (1) ヒト・モノ・情報を結ぶ「みち」

古墳時代中期の5世紀代と考えられる金塚古墳から出土した「常総型石枕」は、香取海と呼ばれた利根川下流の千葉県佐原市、香取市などを中心とした地域から出土する遺物であり、利根川の水運ネットワークの存在をうかがわせる遺物である。我孫子市域の台地上には平安時代に平安京と陸奥国府とを結ぶ古代東海道が通過していたと考えられている。相馬郡衙付近には連絡用の<sup>はゆま(えきば)</sup> 駅馬を置いた施設が置かれ「<sup>おぶのうまや</sup> 於賦駅家」と呼ばれたと『和名抄』に記録される。

江戸時代になると、江戸と水戸とを結ぶ水戸道中が整備され、我孫子宿が設置されたほか、一里（約4km）ごとに作られた一里塚（東我孫子・湖北に残存、布佐に石碑のみ残る）、道標などが残される。

これらの「みち」は中央と地方の人々と物資往来の「みち」であり、地方の情報を中央に迅速に伝える情報伝達の「みち」であった。

このほか、興味深いものとしては「なま街道」がある。これは布佐湊で水揚げされた魚を出来るだけ早く江戸の魚河岸に運ぶための「魚のためのみち」であり、利根川改修で移転されたものの、布佐の観音堂を起点として、印西市、白井市を通過して松戸河岸まで続いている。

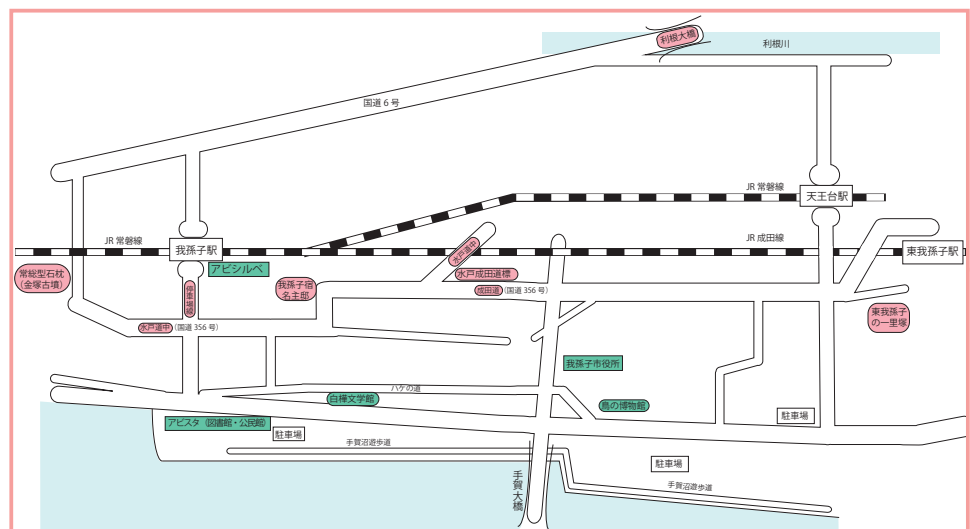


図42 大正時代のまちヒト・モノ・情報を結ぶ「みち」に関連する主な我孫子遺産や施設



みちのものがたり～ヒト・モノ・情報を結ぶ「みち」に関連する我孫子遺産

名称	概要
常総型石枕（金塚古墳）★	古墳の被葬者の頭部を荘厳するために使用された滑石製の石枕。金塚古墳の出土事例は分布域の西限として知られる
古代東海道 水戸道中	我孫子市内では平安時代に京と陸奥国国府を結ぶ道として敷設されていた 江戸時代に成立した水戸へと通じる主要な道
一里塚	江戸時代初期、水戸道中に作られ、東我孫子、湖北、布佐にあった。このうち東我孫子と湖北に塚が残る。塚が残っているのは県内でも珍しい事例
我孫子宿	水戸道中の宿場町
なま街道	銚子で水揚げされた魚の鮮度を下げないために布佐で荷上げし、松戸まで最短で行ける道を開発した
馬頭観音（布佐観音堂）	なま街道の起点に立つ観音堂。当時、運輸を担った馬を供養するため、馬頭観音が祀られている
利根大橋	元来、水戸道中をつなげるために青山の渡しがあったが、陸上交通の発達により、昭和5（1928）年に開通した
栄橋	布佐と布川（利根町）を結ぶ橋。通行料を取る賃取橋であった。栄橋の命名は当時の布佐町長松岡鼎による
成田道	成田道は水戸道中が新たに整備されるまでは、東北への主要な道であった

第3章

★は指定文化財

凡例

- 公共施設
- 「みちのものがたり」ヒト・モノ・情報を結ぶ「みち」関連する我孫子遺産
- 水辺

写真 73 布佐観音堂  
なま街道の起点となった

みちのものがたり

(2) 心を結ぶ「みち」

江戸時代の我孫子宿から分岐して、旅人の「足に効く」として信仰を集めた子ノ神大黒天まで至る「子ノ神道」や、江戸時代後期に 我孫子・柏・取手・守谷に設定された「新四国相馬霊場八十八カ所札所巡り」のための「遍路道」は、参詣者のための道標が各所に残される「信仰のみち」である。また、我孫子地区の手賀沼沿いの「ハケの道」付近には、明治の終わりから大正・昭和初期にかけて白樺派や文化人たちが多く暮らしていた。彼らの小説や文章には、この道を往来し、親交を深めた様子が描かれている。彼らにとってこの道は、単なる生活道ではなく「友情を結ぶみち」となった。

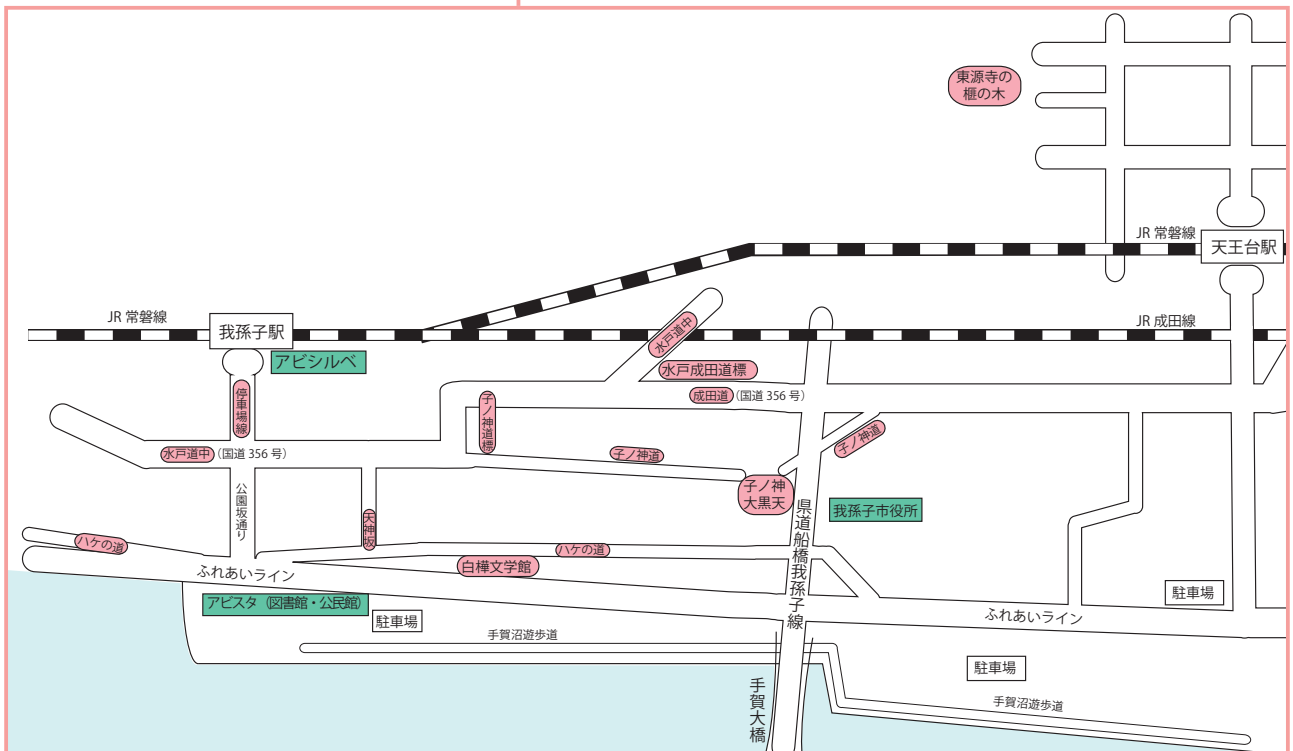
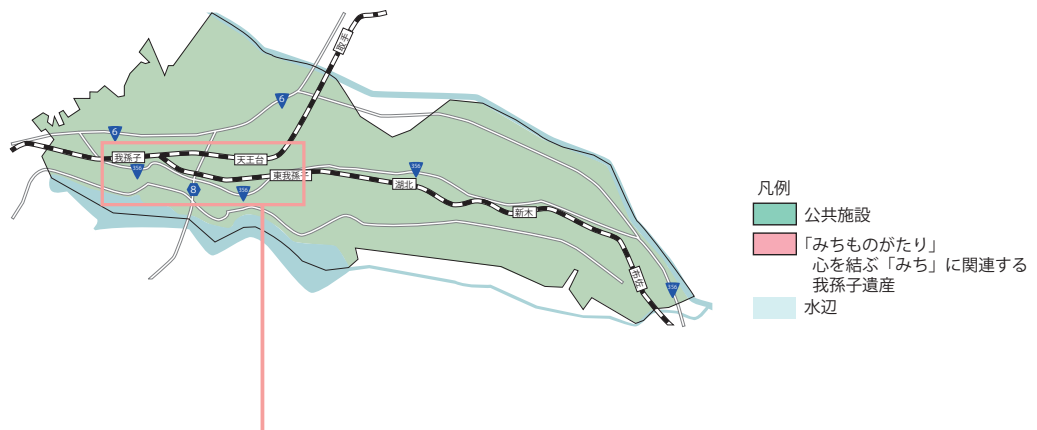


図 43 心を結ぶ「みち」に関連する主な我孫子遺産や施設

みちのものがたり～心を結ぶ「みち」に関連する我孫子遺産

名称	概要
子ノ神道	子ノ神大黒天の参詣道。道の入り口には灯笼や道標が残る
遍路道	新四国相馬霊場八十八カ所を示す道標が市内各所に点在している
東源寺の榎の木★	新四国相馬霊場八十八カ所を定めた観覚光音禪師によって植えられたと伝えられる。推定樹齢約 250 年
成田道	江戸時代、水戸道中が新しく定められると、旧水戸道中は成田参詣の道として発達した
ハケの道	田畑や手賀沼との往来に使う生活道。手賀沼沿いの細い道は地元の住民はもちろんのこと、さまざまな文人たちが往来した
天神坂	台地から手賀沼へと続く坂道。坂の上には嘉納治五郎別荘跡地や柳宗悦邸があり、手賀沼沿いの志賀邸への往来に使われていた

第 3 章



写真 74 子之神道標  
「依是子神道」

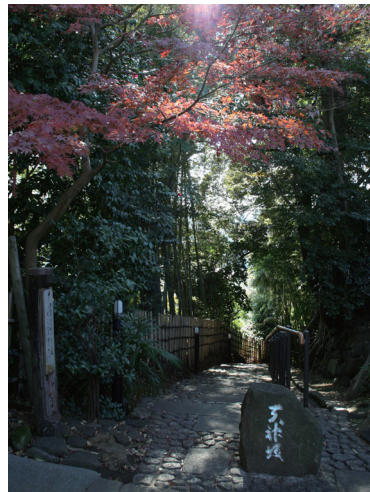


写真 75 天神坂

★は指定文化財

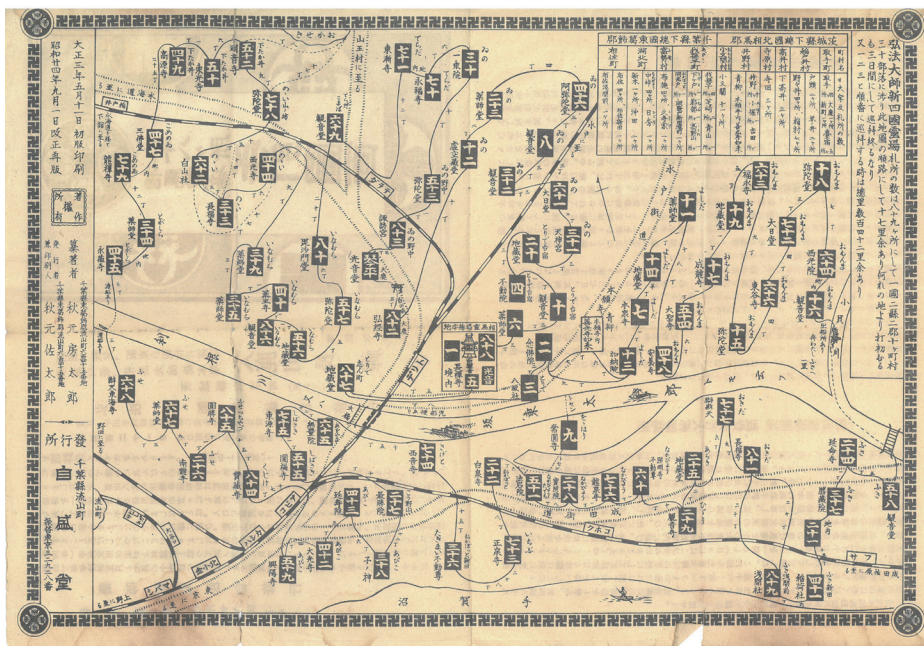


図 44 新四国相馬霊場遍路図



## 伝承のものがたり

伝承は、いつ頃から語られていたのかは定かではないが、人々の日々の暮らしの傍らに常に存在した。今も語り継がれ、これからも語り継いでいくべき「ものがたり」である。

### (1) 平将門伝承

湖北の日秀地区で語り継がれるものとして「平将門伝承」がある。平将門の守本尊と伝わる観音寺の聖観世音菩薩像、平将門調伏祈祷をした成田山新勝寺に首を背ける「首曲がり地蔵」、平将門の軍馬のための「将門の井戸」、平将門の復活を祈願したとされる「将門神社」、そして日秀地区には桔梗やきゅうりへの禁忌など、茨城から千葉周辺にみられる平将門伝承と共通した要素が認められる。これは東国の英雄であった平将門への親近感と、江戸時代後期以降の干拓の推進や人口増による分村などの新たな地域コミュニティの誕生によって、人々の心を結ぶものとして「平将門」が想起されたのだろう。

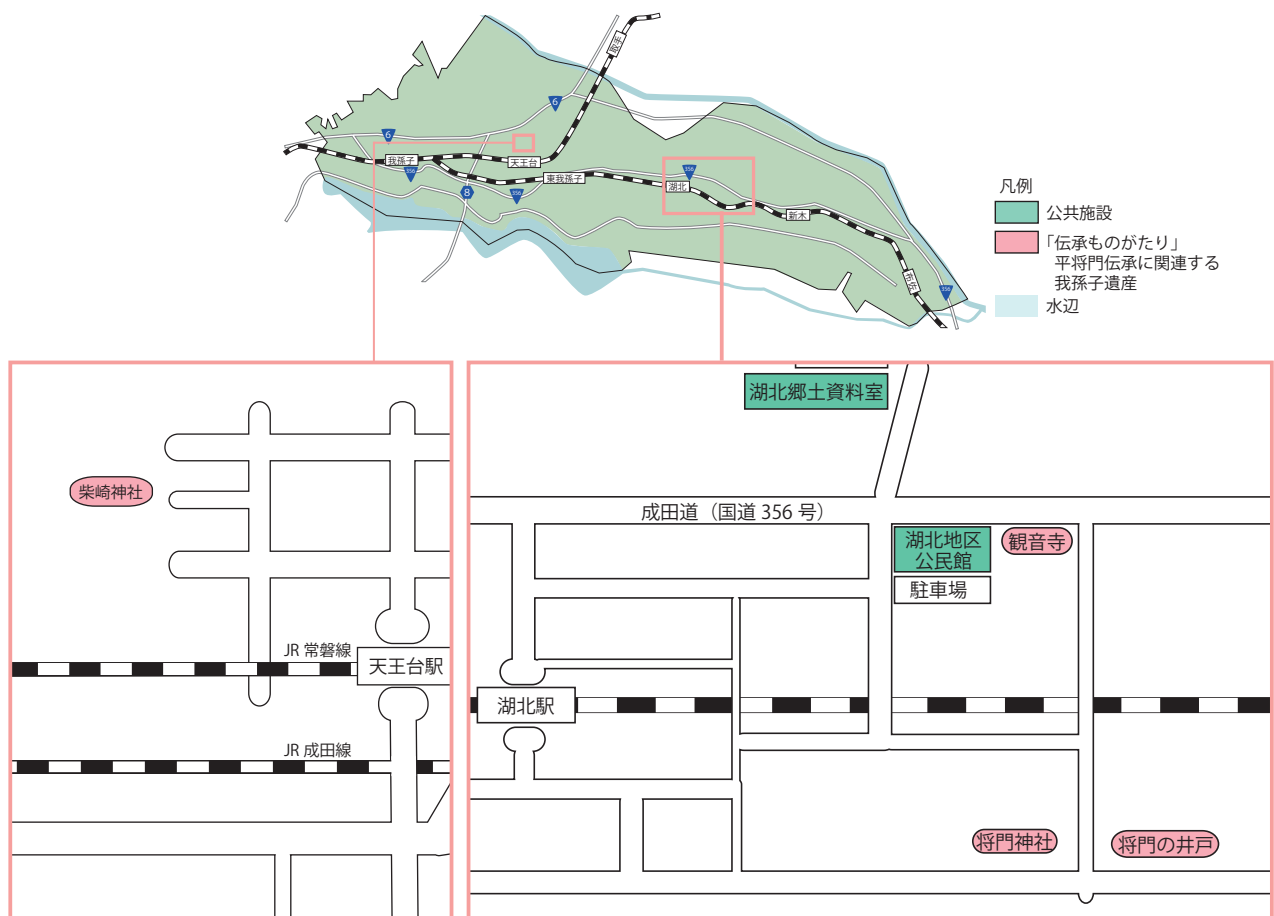


図 45 平将門伝承に関連する主な我孫子遺産や施設

伝承のものがたり～平将門伝承に関連する我孫子遺産

名称	概要
将門神社	平将門を祀る神社
将門の井戸	平将門が命じて作らせたと伝えられる井戸
観音寺	平将門の守本尊と伝わる聖観世音菩薩像を安置
首曲がり地蔵	平将門調伏を祈祷した成田山新勝寺に首を背けていると伝えられる
柴崎神社	平将門が武運を祈願したといわれている
桔梗の禁忌	平将門を裏切ったとされる桔梗御前の名から、この辺りでは桔梗は植えない。また、桔梗の柄は使わないこととなっている
きゅうりの禁忌	平将門の紋である九曜紋がきゅうりの断面に似ていることから、きゅうりを輪切りにしないこととなっている
『湖北村誌』	平将門伝承に関する記述がある最古の郷土資料。大正9（1920）年刊

第3章



写真 76 日秀観音



写真 77 首曲がり地蔵



写真 78 将門神社



写真 79 『湖北村誌』原稿



伝承のものがたり

(2) 塚と手賀沼の伝承

湖北地区には「塚」を巡る伝承が残されている。「順道塚」、「擔塚」は戦国時代と関連付けられるものである。古文書なども残らず、史実のほどは不明であるが、大正時代には人々の話に上っていたと考えられる。史実を織り交ぜた話と実際にある「塚」（古墳や自然地形）を結びつけて伝えることによってより現実味を帯びる伝承となり、人々の哀愁や関心を誘うものとなった。

正泉寺の「血盆経出現」や「鰻塚」の伝承は手賀沼と深く結びついており、人々の生活の場として手賀沼が身近にあり、それがゆえに人々の興味と信仰心を誘うものであったのだろう。

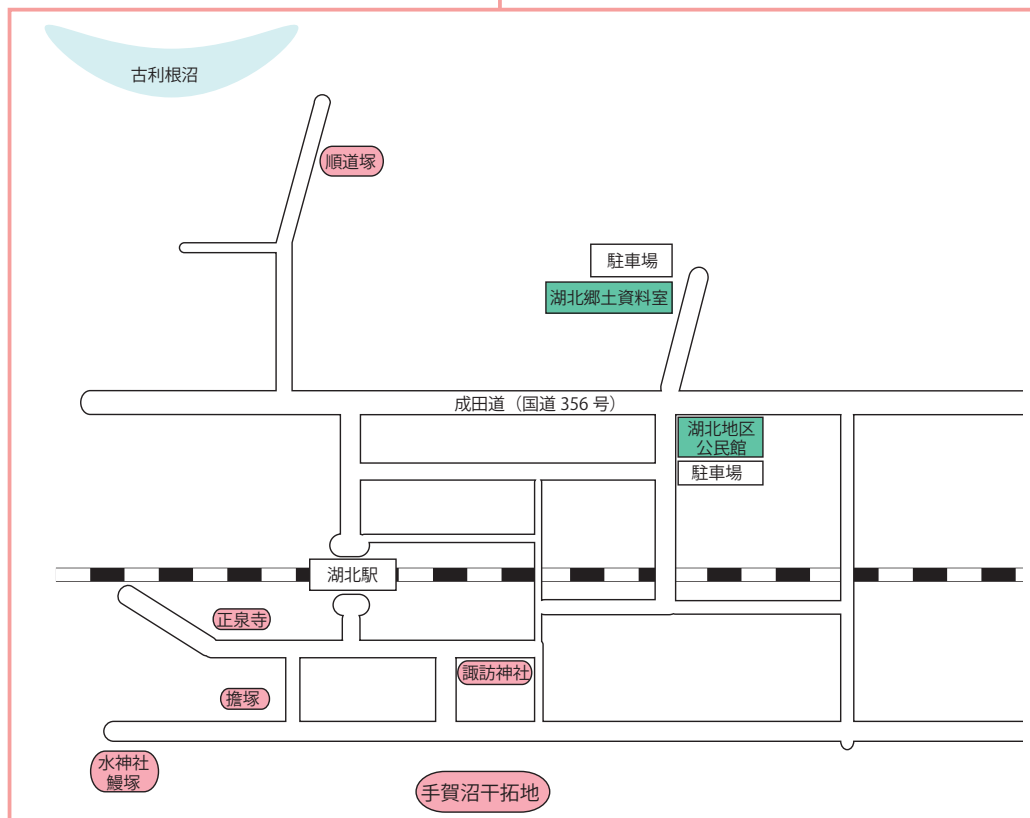
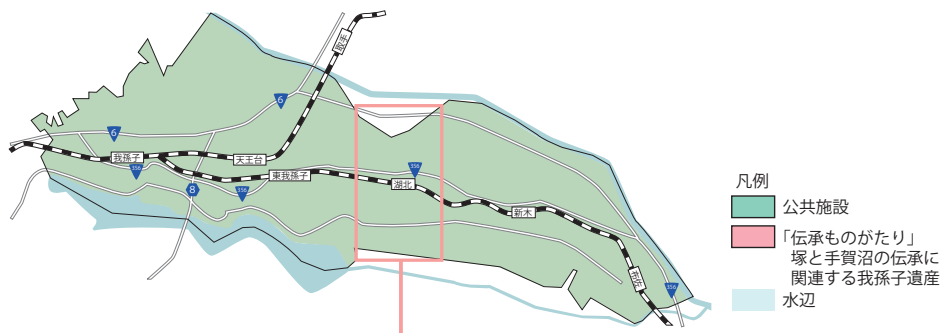


図46 塚と手賀沼の伝承に関する主な我孫子遺産や施設

伝承のものがたり～塚と手賀沼の伝承に関連する我孫子遺産

名称	概要
順道塚	中峠（芝原）城にまつわる伝承に登場する武士の林伊賀守（のち、僧となり順道と称す）に関する塚。古墳の上に順道の墓碑が建っている
擔塚	昔話には大男が天秤を担いで置いていった土が小山となったという。その他に稲田姫の伝承がのこる。塚は造成とともに失われたが、塚にあった碑は一部諏訪神社に移されている
諏訪神社	擔塚にあった碑が移されている
『湖北村誌』	湖北村の伝承が記されている
手賀沼	藤姫や鰻に関する伝承が残る
正泉寺	正泉寺の所在地である「都部」の由来についての伝承などが残る
水神社（都部新田）	鰻塚が残る



写真 80 正泉寺



写真 81  
昭和 22 年撮影された擔塚、2 つ並んでいるのがわかる ((株) 日本地図センター)



写真 82 鰻塚



写真 83 順道塚

以上、4つの「ものがたり」を作成したが、このものがたりを P55・56 の図 31 に落とし込むと、次の図 47 の通りとなる。我孫子遺産が既存の枠組みを超え、「ものがたり」として結びつくことがわかる。

「ものがたり」の中で我孫子遺産をさらに輝かせるためには、一つ一つの我孫子遺産をより磨き上げる必要がある。次章でその実行計画について詳述していく。

	自然にかかわる我孫子遺産	人々の暮らしにかかわる我孫子遺産	地域社会や産業・交通にかかわる我孫子遺産	祭祀や信仰にかかわる我孫子遺産	人々の記憶と記録にかかわる我孫子遺産
全時代	手賀沼				
	利根川				
	湧水スポット				
	谷津ミュージアム				
	ヒカリモ発生地★				
古代		下ヶ戸貝塚出土遺物	地名・人名墨書土器★	前原古墳	
			相馬郡衙関連遺跡群★（県）	水神山古墳★（県）	
			羽黒前遺跡（方形居館跡）	水神山古墳副葬品	
			古代東海道	金塚古墳出土遺物★（県）	
				子ノ神古墳群	
				頭椎大刀（根戸船戸遺跡 1号墳）	
				日立精機 2号墳★	
中世			中峠城跡	二十一仏武蔵石板碑★	
			根戸城跡	興陽寺	
				八坂神社	
				柴崎神社	
				諏訪神社	
				正泉寺	
				大光寺	
				順道塚 擔塚	
江戸	東源寺の榎ノ木★（県）	旧井上家住宅★	一里塚	中里薬師堂 薬師三尊像及び十二神将像★	井上家資料
		榎本次郎右衛門邸	千間堤	陶製仁王像★	
		水塚	観音堂 馬頭観音	富士山信仰（天照神社、浅間神社）	
		我孫子宿旧名主邸	水戸道中	桂香院奉納地蔵菩薩像	
			布佐湊	滝不動	
			追分道標	勝蔵院	
			我孫子宿 なま街道	観音寺 首曲がり地蔵	

図 47 我孫子遺産の時代別表（ものがたり入り）

	自然にかかわる我孫子遺産	人々の暮らしにかかわる我孫子遺産	地域社会や産業・交通にかかわる我孫子遺産	祭祀や信仰にかかわる我孫子遺産	人々の記憶と記録にかかわる我孫子遺産
江戸			成田道	将門神社	
			子ノ神道	将門の井戸	
			遍路道	桔梗の禁忌	
			ハケの道	きゅうりの禁忌	
				延命寺 薬師観音 虚空蔵菩薩	
				正泉寺の血盆経信仰 資料★（県）	
				古戸里神楽★	
				葺不合神社本殿・拝 殿附二の鳥居★	
				竹内神社（竹内神社 例大祭★）	
				稲荷神社（布佐下） 水神社（都部新田）	
明治	古利根沼	嘉納治五郎別荘跡		白泉寺 待道講版木 附待道講資料★	布佐文庫
		嘉納治五郎後楽農 園跡		鰻塚	
		漁具			杉村楚人冠資料
		農具			原田京平関係資料
		鳥獵で使した民 具			
大正	三樹の木	裁縫雛形★	蚕霊塔		杉山英先生之碑
		志賀直哉邸跡書斎★			『湖北村誌』
		三樹荘（柳宗悦邸 跡）			天神坂
		凌雲堂医院			志賀直哉小説
		旧杉村楚人冠邸★			杉村楚人冠 『湖畔吟』
		瀧井孝作仮寓跡			
		旧村川別荘★			
昭和		旧岡田武松邸跡	利根大橋	香取神社	嘉納治五郎の書
		旧武者小路実篤邸跡	栄橋	波除不動	手賀沼殉難教育者 の碑
			布佐気象送信所跡 （气象台公園）		血脇先生謝恩之碑
					杉村楚人冠陶製句碑
					バーナード・リー チ碑
近代				山田家コレクション	
現代	鳥の博物館				嘉納治五郎先生之像
	手賀沼親水広場 「水の館」				白樺文学館
					リーチ岬

凡例  水のものがたり  まちのものがたり  みちのものがたり  伝承のものがたり

図 47 我孫子遺産の時代別表（ものがたり入り）